

女子野球同好会が全国大会7年連続7回目出場

女子野球同好会監督（環境人間学部） 江 口 善 章

第20回全日本大学女子野球選手権大会は8月22日から27日にかけて富山県魚津市に於いて開催された。本学女子野球同好会が全国大会に出場するのは姫路工業大学時代の第14回大会から数えて7年連続7回目になる。今年は20回の節目となる大会であることから、高円宮久子妃殿下が始球式を務められ、開会式前夜には久子妃殿下をはじめ富山県知事、魚津市長のご臨席を賜り盛大な歓迎会が開かれたが、この会場での組合せ抽選の結果、兵庫県立大学は第二回戦から立正大学と対戦することになった。初戦は必ず突破すると意気込んで臨んだ試合であったが結果は3対21という思わぬ惨敗を喫してしまい、又しても大きな宿題を持って帰ることになった。

大学女子野球の全国大会は、かつて魚津市にあった小さな短期大学を第二の職場としていた一人の著名な国文学者と、別の大学に勤めていたその門下生とが女子学生の野球交流戦を始めたことを起源としている。当時女性がソフトボールではなく野球をすることは一般には全く認知されていなかったものの、回を重ねる毎に交流戦に参戦する大学が徐々に増えてゆくを見て正式に全国大会として形を整えたようである。現在この大会は『マドンナ達の甲子園』とも呼ばれている。事の起こりが国文学者や文化人類学者の手によった為か、或いは富山県魚津市の情に厚い地域性も多分に影響しているのであろう、大会自体が技と力を競い合うことを主眼としながらも、選手間の親睦や選手と地元魚津市民との交流を重視して趣向を凝らすなど、如何にも文学的な深い情緒に包まれた大会であり続けている。又これを可能にしている魚津市民の献身的なご支援とご協力のことにも忘れてはならない。過去には全国大会会場を交通の便の良い太平洋側に移そうという話は一度ならず持ち上がったようである。その度にオラが町の全国大会を他所に持っていかないと欲しいという市民の熱意によって、大学女子野球の全国大会は一貫して魚津市で開催されており、いつの頃からか魚津は『女子野球の聖地』と称えられ、多くの女子野球関係者にとって特別な場所になっている。

本学女子野球同好会は環境人間学部の高頭直樹先

生と内田勇人先生が最初に種を蒔いて下さったものであり、「HITS」のチーム名で夏の全国大会をはじめ、一般女子野球チームが春と秋に開催する関西女子野球選手権大会や毎年10月に兵庫県が主催し還暦野球・障害者野球・女子野球が直接対戦する「ふれあい交流野球大会」等の大会出場や、更に関西だけでなく鳥取県や広島県の一般女子野球チームも本学新在家キャンパスグラウンドまで遠征に來られて試合をする等の活動を行っている。昨今学生のクラブ活動離れが進み、現在関西地域の大学で女子野球チームを有するのは我が県立大学と大阪芸術大学の2大学のみになった。本学女子野球同好会も毎年メンバー集めに苦勞し、本来の練習や試合をこなすので手一杯でクラブ昇格も適わないため、活動費はメンバーの小遣いに頼っており、全国大会出場は経済的にもそう簡単な事ではなかった。しかし後援会を始め教職員の方々やゆりのき会等のご理解とご支援を賜り、こうした苦境の中でも連続出場を果たしてきたことで、魚津市民にはすっかり兵庫県立大学の名前を覚えて頂き、大会では野球場内外で多くの熱い声援をもらい大いに勇気づけられている。本学の女子野球は未だ成長前夜であるが、何しろ兵庫県は元々屈指の野球処であり、その気になって見てみると野球環境には頗る恵まれているため、兵庫県立大学女子野球同好会「HITS」が全国大会で優勝する日は必ず来ると信じ、辛抱強く頑張っていくつもりである。今後とも女子野球同好会の応援をよろしくお願い致します。（えぐち よしあき）



「高円宮久子妃殿下を囲んで記念撮影するHITSメンバー」